

成果報告書

氏名	邱 學瑾
所属	台中技術學院 應用日語系
招聘回（招聘期間）	第4回（2009年10月1日～2010年9月30日）
招聘研究テーマ	第二言語としての日本語の音韻処理の自動化について
研究目的	第二言語としての日本語の音韻処理の自動化に及ぼす第一言語の影響を明らかにすることである。
<p>研究概要：</p> <p>本研究は、2つの実証研究により、漢字圏日本語学習者の日本語音韻処理の自動化に及ぼす第一言語の影響を検討したものである。</p> <p>実証研究1では、中国語と日本語2言語間の「同根語」と「非同根語」を比較することにより、日本語の音韻処理に影響する第一言語の形態情報の影響を検討した。その結果、同根語は非同根語より音韻処理が遅いことが1級学習者に示された。これは、日常の学習活動において、台湾人日本語学習者が中国語の漢字知識に頼って同根語を処理しており、日本語の音韻処理を疎かにするためであると考えられる。</p> <p>実証研究2では、日本語漢字語彙の音韻処理に及ぼす中日音韻的類似性の影響を検討した。その結果、音韻的類似度高群は、音韻的類似度低群より意味処理にかかる時間が短いことが明らかになった。ただし、音韻的類似度の高群と低群は統制群より反応時間が長いという結果も示されたので、中日音韻的類似性の影響はマイナスかプラスかは本研究では判明できず、更なる研究が必要である。</p> <p>以上の結果から、台湾人日本語学習者は、日本語の漢字語彙を処理する際、中国語も活性化し、日本語漢字語彙の処理に何らかの影響を与えることが明らかになった。中日2言語間の語彙的關係、すなわち漢字語彙の表記形態・音韻・意味の類似性は、日本語漢字語彙の音韻習得・処理に促進効果か干渉効果をもたらすことが示された。</p>	
<p>展望：</p> <p>本研究の結果より、台湾人日本語学習者の第一言語である中国語の漢字知識は、学習者の学習ストラテジーに、もしくは、日本語の音韻処理に直接にかかわるとい形で、日本語の音韻処理の自動化に影響を及ぼすことが示唆された。日本語教育を行う際、人間の情報処理のメカニズムを生かす重要性が示されている。以下、活用の展望について述べる。</p> <p>1. 教師側は、学習者の母語背景を配慮し、人間の情報処理のメカニズムを生かした授業やテスト方法を導入することが重要である。たとえば、シャド</p>	

ーイングなどの音声重視の指導法はより漢字圏学習者のニーズに適合するだろうと考えられる。

2. 中日2言語間の語彙的關係に基づき，日本語音韻処理の自動化を促進するような，自習用の音声教材や E-learning 教材を開発することが望ましい。
3. 学習者は，日本語の心内辞書を構築する際，日本語単語の特徴に応じ，学習ストラテジーを工夫することが重要であろう。

今後の課題として次の2点が挙げられる。

1. 中日音韻類似性の影響はプラス効果かマイナス効果かをさらに明らかにすること。
2. 日本語音韻処理の自動化に及ぼす他の要因を探ること。